

(様式2)

## 当所における血液生化学検査の測定結果と精度管理

：伊那家保 平野皓己

1 当所では乾式臨床化学分析装置を用いた血液生化学  
2 検査を年間約550件実施。年に一回、標準血清を用い  
3 たメーカーによる外部精度管理により、許容範囲外と  
4 なった項目は分析装置の校正を行ってきたが、毎年同  
5 じ傾向の測定誤差を生じたため、独自調査を実施。臨  
6 床的に健康な牛590頭におけるTP、ALB、GLU、BUN、  
7 TCHO、Ca、IP、GOT、GGTの測定値を集計。月別平均測  
8 定値と基準値を比較すると、校正後の測定回数と測定  
9 誤差に相関を確認。測定誤差は測定回数に依存すると  
10 仮定、月別の補正基準値を作成し、検査結果を再評価。  
11 修正が必要な検体数の割合はGLU9.8%、BUN5.9%、  
12 TCHO8.7%、ALB48.8%、IP15.7%。それらの測定値分  
13 布、月別検体数及び割合を評価。校正後、修正検体数  
14 割合が5ポイント増加した測定回数を各年で算出。最  
15 も早く達したのはALBの190回であり、安定した測定  
16 値を得るには、年一回の外部精度管理のみでなく、概  
17 ね200回測定毎の校正が必要。